



まちのシンボル「ひと・まち・ゆめ」

わが町 志津南 NEWS

志津南ホームページ
http://waka-kusa.net/

発行
志津南地区自治連合会
連絡先
志津南市民センター
(公民館) 563-6206

地域自治を住民の手で

市と協働で住みよい町へ

行政機能と財源を一部委譲

超少子高齢化をはじめとする社会経済環境の変化に伴い、これまでの生活の豊かさを追求する姿勢から、自分が属する地域

社会の共有する空間を大切にし、絆を取り戻して住民の手で助け合っ

草津市が進めている行政システム改革の重要な柱である「行政と市民による協働のまちづくり」がそれです。

この取り組みへのご理解と賛同、ご協力を賜りますようお願いいたします。



将来の町づくり拠点となる志津南市民センター

最終的には地域活動の拠点となる市民センターの地域総合化を推進し、公共サービスの一部にかかる権限と財源を新たに設置する「まちづくり協議会」等に委譲する方針です。

志津南地区同和教育推進協議会と志津南市民センター(公民館)共催の町内学習懇談会推進者研修第3講座と公民館「人権講座」が8月23日夜、同センターで開催され、講師の滋賀県人権センターの古高成規さんが「私の中にある思い込み」と題して講演しました。

なか、各町内の人権学習懇談会が次の日程で開催されますので多数ご参加ください。

当地域は、地域情報の発信・共有化を図る手段として「志津南ニュース」の発行とHP「志津南」を昨年度までにスタートさせました。今年度は自治連直轄で行っていた管理運営を地域ボランティアで組織する広報委員会に委譲、紙媒体と電子媒体を一元化し、内容の見直し、充実に取り組んでおり「協働のま

ちづくり」の必須条件である情報発信や意見交換の基盤は出来ている状況にあります。

- 10月4日(土) 19時半、若草1丁目、若草2丁目
- 10月5日(日) 10時、若草5丁目、若草6丁目
- 10月25日(土) 19時、若草7丁目、若草8丁目
- 10月26日(日) 19時、若草3丁目、若草4丁目

人権講座開く

(自治連合会)

協働合校が防災テーマに体験活動

防災センター見学や応急手当

泊まり込みでは非常食づくり

志津南地区地域協働合校（岩井淑郎会長）は8月9日と10日の2日間、「チャレンジ防災」をテーマに施設見学や応急手当、非常食づくりなどユニークなメニューを盛り込んだ宿泊体験を実施しました。



人形を使って救命法を体験する子どもたち

同協働合校では、例年、さまざまな体験を通して子どもと大人

の「共育ち」を進めています。が、特に今年は、災害時に自ら考え、行動することを目的に、志津南地区自主防災連絡会と共催して「防災」をテーマに取り

組みました。1泊2日の日程で行われた同体験学習は京都市民防災センター

の見学、志津南小学校での救命講習、市民センターでの非常食づくりなどが行われ、子どもたちは肌で「災害」を感じ取

りました。

1日目は朝から小学5・6年生9人とボランティア、自主防災連絡会の人たちあわせて33人が、京都市民防災センターを見学、煙の部屋から脱出したり、震度7の揺れや風速30m/sを超える強風に耐えたり、スクリーンに映し出された火災を消火器で消したりするなど、災害を疑似体験しました。

午後からは志津南小での救命



救命講習、また夕方からは市民センターで非常食の夕食を味わってそのままセンターで宿泊。

2日目は、早朝のラジオ体操から始まり、朝ごはんは手作りホットドック。材料をアルミホイルに包み、自分たちで準備した牛乳パックに入れて火を付けて準備完了。トマトもキウリも丸かじり。子どもも大人も興味津々でしたが、予想以上に上出来で、野趣あふれる朝食となりました。

災害の疑似体験から始まった非日常の2日間でしたが、子どもと大人が共に体験し、チャレンジし、防災について考えた有意義な時間でした。

止血法や応急手当が

9日午後、志津南小学校体育館で行われた救命講習には40人が受講、西消防署分署の救命救命士の指導を受け、家庭でできる救命方法を学びました。まずは骨折した時の応急処置の仕方を学習。説明を受けた後にペアを組み、三角巾を使って相手の腕を固定しました。参加者は悪戦苦闘しながらも実際に自分で手を動かすことにより正しい処置法を会得しました。

後半は訓練人形を使って心肺蘇生法を体験。最初は緊張してうまくいかない部分もありまし

たが、みんなで声をかけ合って行っているうちにつまみくできるよくなりました。参加した子どもたちは「命の大切さを学べた」「今まで知らなかったことを学べて勉強になった」「自分の手で体験できてよかった」など講習に参加したことに満足そうでした。

（龍大生 手島瑤奈）

非常食に驚きと満足



「け」写真。用意されたのはお湯をいれて15〜20分ほどでご飯ができる非常食用のお米。参加した地域の人も交えて山菜おこわなど3種類の味を楽しみました。作り方の説明を受ける子どもたちは真剣そのもので、この日の防災体験を話し合っていました。「ご飯ができると歓声があがり、お湯だけでご飯ができることに驚きを隠せない様子でした。非常食はおいしくないのでは、と考えがちですが、「一週間ぐらいならこれでも大丈夫かも」と味も量も十分満足できるものだったようです。

夕方からは志津南市民センターに泊まりこんでの宿泊体験。夕食もちよつと変わって災害時用の「常備食」。昼間の防災学習を振り返りながら災害時の「食」をかみしめました。「非常食レストラン」と名づけられた夕食

は文字通り災害時用の非常食だ

非常食作りの待ち時間に、古新聞を使ってマイスリッパを作りました。災害時に割れガラスなどから足を守るためのアイデア品ですが、子どもたちは、自分の足のサイズに合わせ、模様や名前を書いて完成させて2日間愛用。ほころびはセロテープで補修しながら、かなりお気に召したようでした。「楽しく勉強できた」と話す子どもたち。もしもの時に頼りになる地域住民がまた増えたいえそうです。

（龍大生 平山義隼）

こよみ

- 9月15日(月) 敬老祝賀会 11:00~14:30 社会福祉協議会
 - 9月17日(水) 古今東西 10:00~12:00
 - 9月19日(金) ゆうゆうびと講座 9:30~11:30 生涯学習スポーツ課
 - 9月24日(水) 家庭教育支援講座 親子のふれあい 9:30~12:00 やすらぎ学級 13:30~17:00
 - 9月27日(土) すこやかセミナー 子どもの非行防止と防犯活動 13:30~15:00 青少年育成区民会議
 - 9月28日(日) 志津南地区スポーツまつり 8:30~15:00 志津南小グラウンド
 - 10月3日(金) 定例健康相談日 9:30~12:00市健康推進課 ふれあい昼食会 12:00~13:00 ボランティア泉
 - 10月4日(土) 市長と町づくりトーク 10:00~12:00 志津南地区自治連合会
- 若寿会:
- ・健康ウォーキングは 毎月第1・第3土曜日
 - ・奉仕作業は 毎月第4土曜日
- ともに8:45若草中央公園集合
地域サロン:懐メロを歌う会
毎月第2・第4火曜日
9月は祝日のため第5に変更
10:00~11:30 市民センター
- 印の会場は志津南市民センター

公民館が環境講座開く



展示コーナーで液化ガスの説明を聞く

地球温暖化防止を考える公民館講座が8月6日、大阪ガスで行われ、広く市民から募集、応募した自治連メンバーや住民16名が参加しました。

真夏の太陽が厳しい中、バス

その後科学館に戻り、各種の展示コーナーをまわって女性アテンドの説明を聞きました。

約1時間半にわたる見学を終え

の中でビデオによる事前研修を受けながら、大阪・高石市の第2工場内にあるガス科学館へと向かいました。科学館では館長から大阪ガスが取り組む環境対策の概要説明を受けたあと、工場が用意した天然ガスで走るバスに乗って大きなガスタンクが立ち並ぶ東北工場を見学しました。

大ガス科学館を見学

温暖化防止の取り組み学ぶ

て昼食をとったあと、再びバスで次の研修場所である「おおさかATCグリーンエコプラザ」を訪ねました。

ここは大阪市が中心となって環境問題と環境ビジネスの全体像を理解してもらうための施設として設置されたもので、大気、

子ども会がリーダー研修

ロク八公園でカレーつくる



草津市の子ども会が小学校6年生を対象に、年間7回実施しているリーダー研修参加の事前

研修として、志津南地区子ども会では、小学校5年生を対象に5年生リーダー研修を毎年実施しています。

今年も7月26日にロク八公園で実施、志津南地区の小学校5年生14人が参加しました。

当日は、草津市の子ども会からジュニアリーダーレモンの4人にお越しいただき、指導してもらいました。

この日は、スターで材料の買い出しから始まり、ロク八公園のデイキャンプの森で、カレー

参加増えたラジオ体操

志津南小学校PTA恒例のラジオ体操が、夏休み期間中の7月22日から8月1日までと8月25日から29日までの14日間朝7時半から、地域内の各公園



ちびっ子も元気に体操

水、騒音、廃棄物、エネルギーなど、複雑化、深刻化している環境問題を市民をはじめ、企業や自治体がどう立ち向かってい

るかが紹介されており、わたしたちにもできそうな解決策の一端を示していました。

とデザートを作りました。普段子どもたちは、家で料理をしていない上、マキで火をおこさないといけないことから、一時はどうなることかと思いましたが、しかし、指導者の指示のもとに、慣れない手つきで野菜を切り、飯盒(はんごう)でご飯を炊いて、おいしいカレーを作る

ことができました。調理が予定より大幅に遅れ、予定していたレクリエーションはできませんでしたが、けがもなく無事終わることができました。

暑い中、ご参加いただいた役員の方々に、「苦労さまでした。」(子ども会)

で行いました。今年は例年以上に子どもたちの参加が多く、元気に朝の体操をしていました。その中には保護者に付き添われた未就学の子どもの姿も多く見られ、小学生のお兄ちゃんお姉ちゃんのお真似をしながら音楽に合わせて元気に体を動かしていました。特に若草中央公園では若寿会の皆さんや近所の方々と一緒に第二体操まで行い、賑やかに心地よい汗をかいていました。

今年も地域の皆様の支援で事故なく終えることができ、ありがとうございました。近隣の方々には早朝よりご迷惑をお掛けしたことをおわびいたします。(志津南小PTA地域部)

すーくろ万歳

25年ほど前、「美味(おい)しんぼ」という、当時珍しい「食」をテーマにした漫画が登場した。究極のグルメを追求する主人公たちの活躍を漫画にした、いわゆる美食モノである。今も人気不衰えない、という。

これに引き換え、ここに紹介する「くいしんぼ」は「おぼんざい」という日本の家庭に根付いてきた食卓に上る普通の「おかず」が主。煮物、揚げ物、焼き物などに工夫をこらさず。その「くいしんぼ」ぶりを拝見しよう。

おしゃべりしながら食材を手際よくさばっていく



う。

9月4日、朝9時半すぎからメンバ―が市民センター調理室に顔をそろえる。この日は13人が参加した。調理台にはこの日使う食材が並んでいる。

ナス、キュウリ、トマト、シヤタケ、オクラなどの野菜類、それにアジ。アワビや伊勢海老といった高級食材はもちろんない。いたって質素な顔ぶれだ。

講師の福田勢津子さんが素材

くいしんぼ

作るも食べるも楽し

がに台所のプロ。動きにむだがなく、実に手際がよい。男性のようには黙りこくって手を動かしてはいない。隣り、向かいとおしゃべりしながらトントンと進める。

そうこうするうちに、フライパンでアジの焦げる匂い、野菜を炒める匂いが漂い始める。デザート用の準備も整った。盛り付けが始まり隣室の多目的室の机に並べられていく。この間約1時間。



処理と手順を簡単に説明する。「男の料理教室」と違って主婦相手だから話が早い。午前10時すぎ、3つの調理台に分かれた13人が手分けして食材をさばきにかかる。さす

代表	大迫 由美
会員	16人
活動	毎月第1木曜日 午前9時半～正午
場所	志津南市民センター(公民館)
会費	月額1000円
連絡先	大迫代表 電話(549)2837

全員そろって箸を取る。食べながらおしゃべりがはずむ。「毎日、家族の食事を作っているのにそれでもなお？」と尋ねると、近く敬老会入りするという西村広子さん(6丁目)は「新しい料理が作れるのも、食べておしゃべりするの楽しいから」と笑う。

サークルは公民館がオープンした平成10年、料理教室に参加したメンバーが中心となり続けたい有志を募ってスタートした。その後5年たってそれまでのレシビをまとめた冊子を発行した。間もなく迎える10年目にもレシ

パソコン講座 受講生募集

志津南市民センターでは次の講座参加者を募集しています。

ワード講座「画像の取り込みと差込み印刷」

日時 10月29日(水) 30日

定員 10人

締切り 9月30日(火)

応募多数の場合は抽選となります。

場所 志津南市民センター

対象 文字入力できる方 (パソコン持ち込み可)

(木)31日(金)の3日間、午後1時～午後4時



敬老会の案内状をいただいた。その文面に「そのご長寿をお祝いする敬老会を開催(以下略)」とあった。

対象者は70歳以上。本来は喜ばしいことなのだろうが、後期高齢者が話題となっている今、70歳は長寿なのか?と敬老会の経緯を調べてみた。

昭和22年に兵庫のある村長らが提唱した「としよりの日」が始まりで、老人を大切にし年寄りの知恵を借りて村づくりをしよう、農閑期の気候も良い9月中旬の15日を「としよりの日」と定め敬老会を開いたのがのちに全国に広がった。

その後、「としよりの日」という表現は良くないということで昭

長寿の線引き

今年若草地区の対象者が290人ほど。5年先には430人、10年先には600人に増えると予測されている。これらを考えてと主催者側の運営は全てにおいて大変である。

どこまで平均寿命が延びるかわからないが、対象を80歳に見直す時代ではないだろうか。

(前期高齢者)